

# 道徳通信

No.14 2022年(令和4年)10月28日(金)



学習日：10月27日(木) 内容：「渡良瀬川の鉱毒」

足尾銅山の鉱毒問題に立ち向かった田中正造の実話である。正義を重んじ、被害地の農民と連帯して、差別や偏見のないよりよい社会の実現に力を尽くした田中正造の生き方から、正しいと信じることを積極的に行動で示すことの大切さを学びたい。

## 【生徒の考え】 授業後に考えたこと、感じたこと

田中さんみたいな人になりたいと思った。市民のためにすごい。ゴミ拾いをしたりして、今の日本を変えていけるような人になりたいと思った。

人の努力は報われる。努力をすれば、いつかは報われる。この努力のおかげで今があるんです。努力して今を改善してきた人に感謝したいと思います。

身の周りにもたくさんの小さな課題から大きな課題まであるので、自分にできることを見つけて一歩踏み出そうと思いました。

知っていることを見過ごさない。今の環境問題に本気で解決しようとしている人もいるので、簡単にポイ捨てとかはできないと思った。

政府とか偉い人に訴えるだけではなく、自分たちで出来ることを考えることが必要だと思った。

田中正造さんのように自信をもって行動をしたい。困っている人がいたら、見て見ぬふりをするのではなく、助けていきたい。

当時から多くの人が足尾銅山の鉱毒問題がよくないことだと知っていました。しかし、実際に行動に移し問題を解決に導いたのは田中正造さんをふくむ一部の人々でした。

さて、この話を学校生活に置き換えてみましょう。「〇〇のせいだ。」と何かのせいにして、不平不満を言ったことはありませんか。誰かのせいにするのは簡単です。しかし、実際にその課題に真剣に向き合い解決するために行動に移しているでしょうか。田中正造さんに学ぶことは多いと思います。自分の学校生活を振り返ってみましょう。